

JOMA 通信

海外宣教連絡協力会・公報

No.46,47合併号

Japan Overseas Missions Association

JOMAの新しい活動を求めて

JOMAの使命と 今後の展望

JOMA副会長 安海 靖郎

宣教師が遣わされるまでの備え、送り出す体制づくりには、専門的な理解と協力が必要です。しかし、宣教師の長期で安定した奉仕継続には、それ以上のものが必要とされます。

この点の不十分さの故、折角の宣教師派遣がとまどいや痛み、失望さえもたらしている現実を見過ごしてはいけないと思います。

JOMAは、今日まで送り出す側の交わり、情報交換、研修会、宣教師は件に関する書籍発行などで、貴重な積み重ねをしてきました。

今、切実に期待され、必要とされていますことは、この現実をタブー化せず、しっかりと直視し学び合うこと。そして、その必要に応じていくべく、宣教師、及び、宣教地の理解と対応の深化。宣教地での長期にわたる奉仕継続のための問題解決、対処。子弟教育のための協力。宣教師の訓練の充実と生涯計画などがあります。

そのための情報交換、経験の分かち合いの協力が急務であることを実感します。そこにJOMA特有の使命があるのではないのでしょうか。■



新しい事務局で持たれた昨年11月の役員会
右から2人目が、本年度会長の不破勝美師

今後の展望

平位 全一
(JOMA事務局)

JEA-MC発足への感謝

247-0014

横浜市栄区公田町 438-9

教会と密接に結びついているJEAに世界
宣教専門委員会が発足したことによって教会

の世界宣教への取り組みを強化できるでしょう。この発足は、祈られ待ち望まれていたものでした。しかし、

JEA-MC発足の JOMAにとって問題となる点

がないわけではありません。

1 ある人々は同じ福音派の協力関係の中での世界宣教に関する分野を一本化したいと考えていることが、そのひとつ。

2 JEA加盟の教団・教派にとっては、働きが重複している感を拭いきれません。殊に、JEA・JOMAと二重の会費負担と絡んで経済的な問題があります。

3 今後、以上『1,2』のような考えを抱いておられる教派・教団、教会の態度如何が鍵となることが予測されます。

可能性-そのI

現在加盟している21団体がJOMAに留まり続け、現状を維持でき、また、将来発展していった場合：

1 JEA-MCに教会との密な関係に鑑みて、宣教大会開催などの啓蒙の働きを主にJEA-MCに託して、

2 JOMAとしては一層専門的な集団としての正確を明確にすることが考えられますでしょう。即ち、

① 世界宣教実務者・担当者懇談会

② MK問題との取り組み—教派、特定の宣教団体が行うより、JOMAのような超教派の交わりの中で、考えるべき分野では



役員会のスナップ

ないでしょうか。

③ その他、この点をJOMAは真剣に協議する必要があると考えています。

可能性-そのII

ある教派、教団が脱会していった場合：

1 超教派の宣教団体のみの交わり、連絡協議の場として、以下の点などから、機能してゆけるかが当然問われることと思います。

① 役員その他の人材

② 経済的

2 機能してゆける場合：JEA-MCとの関係をどのようにするのかを考慮しなければなりません。

① JEA-MCは主として「教会（教派）」中心の態勢です。

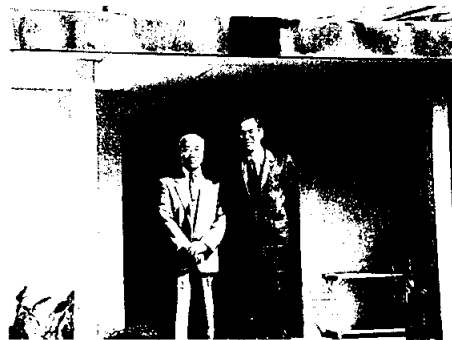
② 関係を持ち続けるために

・超教派の宣教団体が、個々にJEAに（準会員として）加盟する方向か。または、

・JOMAが一団体としてJEAに加盟し、JEA-MCにJOMAとしてある数の委員を送り込み、JOMAとしての立場を一層反映してもらう体制を作ってゆくかが考えられます。

3 縮小して、超教派の宣教団体のみの交わりとなった場合、機能しなくなる危険性があることも予測されます。■

以上



事務局のために部屋を提供してくださった教会の前で

新しい事務局の電話番号は：

・Tel. 045-891-7769 / Fax. 045-895-3761

・事務担当は：坂庭祐子姉です。よろしくお願いします。

MKへの ケアを考える

日本ウイクリフ聖書翻訳協会
子女教育担当主事
永井 敏夫

子女へのケアの面で、できたらと思うことを書かせていただきます。

1) 加盟諸団体の子女ケア担当者会

ほとんどの団体には、子女担当者がまだいないと思います。ですから団体の海外宣教担当者または、宣教師の派遣にあたり中心的な働きをしている教会や母教会からの牧師先生又は役員、教会学校の先生方等の参加があれば素晴らしいと思います。集まりでは、お意見交換を通じて、互いの団体や教会の抱えているさまざまな課題を知り、子女ケアの現状と課題を聞いたり、質疑応答の時を持たたら素晴らしいです。元MK（宣教師子女で、現在大学生か社会人）の証しを聞く機会があればと思います。そして、参加者一同が心を合わせて祈る時を持つことができれば素晴らしいと思います。

2) JOMA加盟団体派遣宣教師 及び子女の手記発行

宣教師の方々に子育てを振り返って感じて



役員
の一人
・山村師

いることを書いていただくことは、どうでしょうか。今までのニュースレターに書かれたものでも結構です。これらを、子女の書いた作品（詩、思い出、作文等）等と共に集めて、編集、発行をすることができたらと考えています。日本のキリスト教会が、まず宣教師の家族の思い、考え、経験を共有していくことが、宣教へのより深い理解につながってくるように思います。

3) 宣教師子女の世界地図 カレンダーの発行

子女の写真が掲載されている地図やカレンダーはどうでしょうか。日本の教会の教会学校を中心に、クリスチャンの方々に利用してもらえたらと、夢見ています。写真さえあれば、クリスチャンの印刷屋さん等の協力のもと、実現が見えてくるものと思います。

4) 住所録作成

現在、諸団体のご協力のもと作成が進んでいます。ただ、住所の公表については、団体そして宣教師個人の了解がとられてはいません。今後、どういう手順で発行に至るのかはまだ未定です。

5) 宣教地訪問旅行

高校生、大学生による宣教地訪問が、できたら素晴らしいと思います。日本からの一行にとって、宣教地の子女や現地の子女と交流できることは、必ずや代え難い体験になると考えます。また、宣教師子女にとっても、励ましとなり、祈りあえる仲間がいることを再認識する機会となるように思います。■

JOMAの事務所が、長らく
お世話になったお茶の水PBA
内から、横浜・栄区に移転しま
した。ご留意ください。



会長、不破勝美師(左)からのお願い
JOMA通信を覚えて、是非原稿をお寄せ
ください。

すので、よろしくお願ひします)。■

渡辺 順子
(アンテオケ宣教会)

私が奉仕しているハガル・プロジェクトでは、母子家庭のためにたてられた一時避難収容施設(プノンベン)を中心に、教育や職業訓練を受ける機会を主に提供しています。この働きでは母子がイエス様の福音を聞くと共に、自立した新しい生活のきっかけをつかめるように活動しています。カンボジアでは20年以上にわたり戦争や政情不安が続き、人々は心に深い傷を負って暮らしています。特に貧しい家庭に生まれた子供達は、最も弱い存在であり、また多くの虐待を受けています。物と同じように200~300ドルで売買され、性産業の餌食となることも少なくありません。その果てにエイズに犯され幼くして亡くなっていくこともあります。一方、夫や家族に捨てられた妻たちは、生き残る手段として物乞いや売春をしています。特に私はそのような女性たちに工芸品製作の指導をしています。この働きが始まってまだ4年ですが、1000人近くの母子が関わり、多くの魂が救われています。■

■ カンボジア ■

菅家 庄一郎
(OMF)

1998年7月26日にカンボジアでは総選挙が行われましたが、その後、9月には野党による大きなデモがあり、10月20日現在、新政府による国会は開催されていません。そのため、観光客は少なく、新政府の動きがさらに遅れば、海外からの援助も減るのでないかと懸念されています。

公務員の給料はかなり長く支払われておらず、リエル(カンボジアのお金の単位)は少しずつ下落しています。目に見える状況は暗い中で、カンボジアに住むクリスチャンは信仰を試されている動があります。

地方では、場所にもよりますが、家庭集会のような小さな集会が広がっているようです。政府の問題が解決され、正しい政治が行われますように、カンボジア人で正しく聖書を教えたり、弟子訓練をすることができる人が多く起こされてきますように、お祈りくださると幸いです。■

(原稿に、写真を添えて送ってくださると、「JOMA通信」の紙面が、より生き生きとしま

■ モンゴル ■

北村 彰秀 (AOG)

旧社会主義体制崩壊後間もなく、1991年の秋に私たちはモンゴルに赴任しました。そして集会による伝道と、新約聖書の翻訳の働きを継続して来ましたが、今年の春に現代モンゴル語聖書翻訳同盟訳として出版することができました。モンゴルは現在、民主化後の大変化期にあり、失業問題、インフレ、多数のストリートチルドレン等、多くの問題が山積みしています。そのため政治も

なかなかうまくいかず、首相が決まらない状態が既に二か月以上も続いています。民主化により、宗教・伝道の自由は認められ、首都ウランバートルには現在20～30の教会があり、それ以外の多くの地方都市にも教会ができています。ただ、仏教優遇の中で、仏教以外の宗教はいろいろな制約を受けています。教会はすべて当局の許可を得なければならず、集会所が許される場所も限られています。しかし、そのような中でも特に青年層の福音に対する関心は高く、福音は確実に浸透しつつあります。■

木島 正敏 (LMI世界宣教会)

モンゴルに赴任してから三年半が経過しましたが、その間に、モンゴルの国内状況、社会状況は急速に変化してきました。まるで、日本の戦後すぐの状況を見ているかのようです。それに併せて、宣教も最初の急速な働きの拡大から、徐々に成熟期を迎え、今はむしろ、それぞれの地域教会が内部の建てあげ、弟子化訓練へと働きの重点を移しています。モンゴルの教会が外部の働きや援助に頼らないで、霊的にも、財政的にも自立していく、それが私たちの当面の目標ですが、そのために、今年初めからリーダー訓練会を続け、それが仕上げの時期にきております。8月にはモンゴル諸教会のリーダーたちがひとつになって、正式に福音同盟が発足しました。これは、政府の様々な圧迫に対して、正式に世論を形づくり、宣教協力も共にしていこうというものです。諸教会内部の充実とともに、大きな働きをするようになれば、と思

今回の「JOMA通信」は、カンボジア、モンゴル、そして、アフリカ(ケニアを中心として)に焦点を合わせました。世界の他の地域でも、日本からの多くの宣教師方が主イエスのために労しておられます。追々、「JOMA通信」を通して、その情報をお伝えたく願っています(編)。

います。私たちはこれから、二名のモンゴル人牧師を按手した後に、牧師職を辞任し、あたらしい働きへと向かいます。■

兵藤 陽子 (LMI世界宣教会)

1996年8月にモンゴルに遣わされ、三年目の奉仕をしています。秋にはモンゴル語学科に入って、モンゴル人学生と一緒に勉強する予定です。教会では続けて、seven-times-seventyという中高生科を担当しています。一期四年の中の最初の二年はモンゴルの文化、習慣、言葉に慣れることと、時事刻々と変わる教会の状況に振り回されて、自分の在り方を見失っていたように思いますが、これからの二年間は主が私に何をするように願っておられるのか、じっくり探っていきたいと考えています。主が私のような者をとおしても、何かしたがつておられるのだという事を、自分でもっと信じていきたいと思えます。本当に弱者です。どうぞ続けてお祈りくださるようお願いいたします。■

アフリカ (主としてケニア)

竿代 照夫 (IGM国外宣教局)

アフリカは世界の中で最も都市人口が急増している大陸である。都市人口増加率の世界平均は2.76%であるのに比べて、アフリカ大陸のそれは、実に4.56%なのである。ケニアはもっと甚だしく、年に7.1%増加している。10年毎に都市人口が倍増している勘定になる。そのことが齎

す生活環境の劣化、失業問題、犯罪の増加、道徳的退廃、ストリートチルドレン問題等などは、絶望的としか言いようがない。教会はそれなりに成長しているが、その健全性、速度、社会問題への対応において、決して充分とは言えない。

筆者はアフリカ福音教会の中で1979-98年、都市部への教会開拓の実施と計画立案の奉仕に携わる機会を与えられた。ケニア第四の都市ナクルで5つの教会開拓に直接・間接に携わり、今年、生花をヨーロッパに輸出することで急成長しているナイバシャ市での開拓指導を始めた所で、派遣教会の要請で帰国した。筆者に代わって来年、日本から宣教師が（神学教育を主とし、開拓の指導も視野に入れて）派遣される予定である。

品川キリスト教会から10年前に派遣された市橋隆雄・さら宣教師は、ナイロビで神学教育・スラム伝道に携わっている。経済的自立を目指して幼稚園経営も始め、祝福されている。また幼稚園建物で教会の集会を始め、これも成長している。彼等の支援基盤の拡大と奉仕の拡大を計って「アフリカ宣教会」の発足が計画されている[11月28日午後、お茶の水OCCで発会式を持ちます。興味をお持ちの方は筆者までご連絡下さい。]

イムマヌエルからは、ミッション病院としては最大の規模を持つテヌウェク病院に富沢香宣教師が看護婦として奉仕している。現地の看護学生の訓練、近隣の教会での奉仕にも積極的に携わっている。

また、ナクル市で、神学教育、教会建設に携わっている韓国人宣教師ジョン・チュン師夫人、深野美代子師も夫君を助けて良き働きをしている。

日本から1万キロ離れたケニアの為に、篤き祈りを願いつつ。■

JOMAには、現在、21団体（超教派の宣教団体、教派の世界宣教部門）が加わって、世界宣教の重荷を分かちながら、交わりを持ち、活動しています。

加盟を希望の宣教団体は、事務局までご連絡をどうぞ（事）。

■ 新加盟団体の紹介 ■

【在英日本人宣教会】

昨年5月18日付けで、下記の団体より加入の申込があり、9月17日の定例役員会において審査協議の結果、感謝のうちに加盟申請を受理いたしました。JOMAとして大21番目の団体となります。

◎団体名：在英日本人宣教会（British Japanese Outreach Mission）

◎設立：1995年9月

◎代表者：細川 勝利師
事務局担当：竹内豪師

◎日本事務局：

168-0065 東京都杉並区浜田山1-2-19
日本福音キリスト教会連合
永福南キリスト教会内
Tel./Fax 03-5317-8210

◎派遣宣教師と派遣先：

横山基生・好江宣教師（イギリス）
10 Lancing Close, Reading
RG30 2UQ U.K.
Tel./Fax: +44-118-956-7146
E-mail:
MYYokoyama@compuserve.com

◎郵便振替口座番号：00190-5-195499

在英日本人宣教会

◎祈りの課題：英国在住約6万人の日本人の救いと日本の教会への定着のためにお祈りください。■

発行：海外宣教連絡協力会
発行者：不破 勝美
住所：247-0014
横浜市栄区公田町 438-9
Tel. 045-891-7769
Fax 045-895-3761
郵便振替：海外宣教連絡協力会
00160-7-106631